

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171800259		
法人名	特定非営利活動法人 グッドシニアライフ		
事業所名	グループホーム 和居和居		
所在地	岐阜県土岐市泉町大富174		
自己評価作成日	平成27年1月15日	評価結果市町村受理日	平成27年3月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/21/index.php?action=kouhyou_detail_2014_022_kani=true&JigyosyoCd=2171800259-00&PrefCd=21&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ぎふ福祉サービス利用者センター びーすけっと		
所在地	岐阜県各務原市三井北町3丁目7番地 尾関ビル		
訪問調査日	平成27年1月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設より12年が経ち、利用者様の認知症状態も様々であり一人ひとりに合わせた介助が必要となっています。スタッフは認知症の理解を深めながら、一人ひとりに合わせた対応を心掛け笑顔で楽しく生活して頂けるように心掛けています。ご家族様とは、夏祭りや家族交流会での五平餅作り、年2回の遠足、運営推進会議などにご参加頂きながら交流を深めています。ホームの環境は、近くの公園やスーパー、飲食店などへ出掛け地域の方々とふれあう機会を提供しています。利用者様には、認知症があっても残存機能を引き出し役割を持って生き生きと生活して頂けるように取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、近くに公園や堤防道路のある落ち着いた住宅街にある。開設12年が経ち、自治会の一員として、地域に定着している。近所の人たちとは、旅行の土産や野菜のお裾わけなどで、親密な関係を築いている。家族との信頼関係も厚く、農園の管理や家族会、運営推進会議、遠足などに多数が参加をしている。毎月、職員から家族に届ける手紙には、利用者の様子を詳細に伝え、好評を得ている。人材育成では、職員が目標を持ち、研修や資格の取得に力を入れ、働く意欲が持てるように取り組んでいる。そして、利用者が安心して、自分らしく、笑顔で暮らせるように支援をしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人の理念を常に見える所に貼り出し、職員は理念に基づいた介護実践に努めています。	理念は「医療・介護・生活のバランスの取れた運営」以下2項目とし、その意義を、職員間で日々確認し、実践をしている。住み慣れた地域の人たちと関わりながら、残存機能を活かし、自分らしく、安心のできる暮らしを支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会員として地域行事への参加や地域のスーパーや飲食店を利用して、地域社会との繋がりを継続できるように努めている。施設の行事に地域の方々をお招きし、交流を深めています。	自治会員として、夏祭りや種々の行事に参加をしている。小中学生の職場体験や、ボランティアの訪問も定着している。事業所の行事に近隣住民を招いたり、互いに旅行の土産を届け、日常的に交流をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	毎年中学生の職場体験や児童の体験学習を受け入れ、運営推進会議等では地域住民にも参加して頂き、認知症の方とふれあい認知症の方の暮らしぶりを伝えています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は隔月に開催し地域住民やご家族様に参加して頂き、利用者様の状態やサービス状況を報告しています。出席者から多様な意見を求め、会議で検討し運営に反映できるように努めています。	運営推進会議は、隔月に開催し、事業所の運営や利用者状況等を伝えて、意見交換をしている。出席者から、遠足の計画や災害訓練時についての意見があり、それらの意見や提案をサービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者に運営推進会議へ参加を頂き、事業所の実情を伝え、市のサービスや防災の情報などの提供も受けています。	市の担当者とは、運営推進会議や地域ケア会議などの場で、事業所の実情を伝えている。転倒事故や困難事例は、直接出向いて報告をし、助言を得ている。また、介護相談員を受け入れ、協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束についての研修や事業所内での勉強会にて、身体拘束を行わないケアを理解し取り組んでいます。日中は、玄関の鍵は開錠しています。	職員は、身体拘束に関する研修や学習会で、拘束となる具体的な事例を基に学んでいる。玄関の施錠を含め、言葉による抑制や拘束をしないための工夫をすることで、拘束ゼロを実施している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は高齢者虐待についての研修や事業所内での勉強会にて、高齢者虐待についてを学んでいます。職員同士で困難事例を検討し、ストレスを溜めないように心掛けています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員は成年後見制度の研修にて学ぶ機会を持ち、必要な方には活用できるように支援しています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結時にご家族様、利用者様共に説明を行い、不安や分からない点には十分な説明を行い納得して頂けるように努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議や面会などでご家族様から意見を求め、常に話しやすい雰囲気を作るように努めています。ご家族様から出た意見を会議などで職員へ伝え、運営へ反映できるように努めています。	家族の意見を、家族会やサービス担当者会議などで聴いている。おむつ代や食事の内容、利用者の身体状態についての意見があり、サービスの改善につなげている。利用者には、介護相談員に話せる機会を設けている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の面談を年2回行い個々の意見を聴いています。出た意見をリーダー会議や管理者会議などで検討し、働きやすい環境作りを心掛けています。	代表者は、個人面談や職員会議の中で、職員の意見や提案を聴いている。休憩場所が欲しい、ペーパータオルの導入、感染予防対策や緊急時に備えた保険証のコピーなどの意見・提案等を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回の面談を行い職員個々の努力や実績を把握すると共に、向上心へ繋がるように目標を考えてもらっています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人ひとりの現状を把握できるようにリーダー会議にて情報を共有しています。必要に応じた研修を見極め参加できる機会を提供しています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域ケア会議、ケアマネ協議会、法人の勉強会などで交流する機会を持ち、サービスの向上へ取り組んでいます。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様やご家族様から困っていることや不安なことなどを伺い、記録に残しています。職員間で情報を共有しながら、安心して頂けるような対応を心掛け信頼関係構築に努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様に申し込み時よりホームを見学して頂き、センター方式を記入して頂くことで、ご家族様の思いや今までの生活の様子などを理解しより良い関係が築けるように努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所1ヶ月後などは、その時々に合わせてケアプランを立てています。場合によっては、他のサービス利用も検討しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	暮らしの知恵(家事や畑作業など)や物事の捉え方など利用者様から教わることも多く、職員も利用者様に支えられながら暮らしのパートナーとして共に生活をしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様の状況に合わせて、行事などへ参加協力をして頂き途切れない家族との関係性を作りながら、共にご本人様を支援しています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人、知人、親戚などが自由に訪問することができ馴染みの関係が継続されています。行きつけの店(スーパーや飲食店)や自宅などへ出掛ける機会を支援しています。	友人、知人、親戚の訪問があり、定期的に美容師の訪問もある。職員と共に、食料の買い出しや喫茶店に出かけ、馴染みの人と場の関係継続を支援している。事業所の行事には、以前の利用者家族も招待している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の馴染みの関係ができており、利用者様同士で交流をされていることもあります。時には職員が間に入って関係調整もしています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了してもホームを訪問し野菜を持って来て下さるご家族様がみえます。利用者様が他施設へ移られた際も連絡をとり、必要に応じて相談を受けています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のシートを活用し、利用者様一人ひとりの思いや希望を把握してその人らしく生活できるように努めています。困難な場合には、利用者様の生活の様子やご家族様の希望などから毎月のケア検討の際に話し合いを行っています。	契約時に、利用者の基本情報をセンター方式にて、把握している。加えて、日々の暮らしの中でも、思いや意向を聴き取り、「私の姿と気持ちシート」に記して、職員間で共有し、日々の暮らし方に活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のシートを活用し、ご家族様に記入して頂くことで、利用者様の生活歴や馴染みの暮らしなどの把握に努めています。そしてご家族様からお話を聴いたり、これまでの写真を拝見することで理解を深めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者様一人ひとりの心身の状態や残存機能を職員同士で共有しながら、現状把握に努めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティングで職員は意見やアイデアを出し合い、3ヶ月毎のケアカンファレンスでご本人様やご家族様から出た意見や要望などを反映しながら介護計画の作成に努めています。	サービス担当者会議には、関係者を含め、利用者・家族も参加をしている。状態に応じて、医師や看護師に意見を求め、利用者が、より良い生活が実現できるように、介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子や気づきなどを記録に残すことで、職員間での情報共有を図っています。記録の記載事項から介護計画の見直しへ活かすようにしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様やご家族様の状況に合わせて、一人ひとりに必要なサービスを心掛けています。ご家族様が同行できない時の受診を支援したり、個人の要望に合わせた品物の購入支援も行っています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアや介護相談員の訪問、地域での行事(盆踊り)に参加しながら豊かなくらしができるように支援しています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の訪問診察が月2回あり、必要な利用者様には歯科医師の訪問治療や衛生士による指導も受けています。適切な治療が受けられるよう整形外科、皮膚科などの受診はご家族様に依頼し、必要時には職員が対応しています。	かかりつけ医は、本人や家族の了解の下、協力医に変更している。月に2回の訪問診療と訪問看護がある。専門医への受診は、家族が対応し、家族の都合や緊急時は、職員が適切に対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回の訪問看護で相談、指導を受けています。24時間の連携契約を結んでいるため、常に連絡が取れる体制になっています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入退院時には安心して治療ができるように、または早期退院へ繋がるようにご家族様や病院関係者との情報交換に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階からご本人様やご家族様の希望を受け入れ、医療関係者や職員と話し合いながら支援体制を整えています。	重度化や終末期の方針を、契約時に本人や家族に説明し、同意を得ている。常時医療行為のない、自然な看取りを実践している。早い段階から医師と家族、関係者で話し合い、終末の支援体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事業所内での勉強会にて訓練を行い、実践力を身に付けています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防訓練(消防署立会いと自主訓練)では、非難・通報・消化訓練を実施しています。運営推進会議に参加された地域住民の方々に協力依頼をしています。	災害訓練は、家族も参加し、消防署の指導の下、夜間を想定した避難誘導や通報などを行っている。自主訓練では、地震を想定して実施をしている。避難時に、階段での危険性や地域との協力体制などが課題となった。	地域との協力体制のあり方は、運営推進会議で再度検討し、相互協力を基本にした、体制づくりに期待をしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりに合わせた声掛けや対応を心掛けています。職員は対応時の声の大きさや表情、言動などを配慮しています。	常に、年長者として尊敬し、自尊心や誇りを傷つけない、言葉かけと対応をしている。部屋で、のんびり過ごしたい人は、その思いを尊重し、見守っている。入浴や排泄の際は、プライバシーの確保に配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が自己決定できるよう疑問系での声掛けに努め、一人ひとりの分かる言葉での対応を心掛けています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の状態に合わせて一人ひとりのペースを大切に、ご本人様の希望を伺いながら生活を支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎日着たい洋服を選んで頂いたり、必要な化粧品や洋服がある利用者様には購入の支援も行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様の好みを伺ったり、季節感のある献立作成に努めています。ホーム内の畑で野菜を栽培し、利用者様と共に調理を行っています。買い物への同行や外食へも出掛けています。	利用者も、食品の買い物や調理、食器洗いなど、できることを職員と一緒にこなしている。誕生日や普段の献立にも、利用者の希望を取り入れている。食事中は音楽を流し、職員と一緒に笑顔で語り合い、美味しさを共に味わっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶の時間には好きな飲み物を選んで頂き、食事形態も一人ひとりに合わせた対応を努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行っています。訪問歯科を利用し、歯科衛生士による口腔ケアも実施しています。		

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ほとんど利用者様が昼間は布パンツにパッドで過ごされています。職員同士で情報を共有し、一人ひとりの排泄の状況把握に努めています。	排泄チェック票を基に、こまめにトイレへ誘導し、自立を支援している。ほとんどの人が、布パンツとパッドに変更している。パッドサイズを尿量や昼夜で使い分ける工夫で、パッド使用の減少につながっている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食後ゆっくりとトイレで座って頂いたり、腹部マッサージも実施しています。散歩へ出掛け運動する機会を作り、水分摂取量にも配慮しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回決まっているが、夏場は利用者様の希望を伺い毎日シャワー浴ができる体制になっています。季節に合わせて、菖蒲湯やゆず湯なども楽しんで頂いています。	入浴は、希望すれば毎日でも入ることができる。一人で入りたい人、職員と会話しながら入りたい人など、それぞれに受け止め、ゆったりと楽しい入浴を支援している。重度の人は、シャワー浴や複数介助で対応をしている。	重度の人も、介助により浴槽入浴が継続できるように、昨年の目標計画を継続して取り組まれることに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中自室にて休みたい利用者様には体調を考慮しながら、夜間の睡眠に支障がない程度休んで頂いています。夜間ぐっすり休んで頂けるように日中の活動で体を動かせる機会を作っています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬指導にて、副作用などを把握し情報共有にも努めています。内服の介助も行っています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの生活歴などから、得意だったことや残存機能を使用することで楽しみや役割を持って生活して頂けるように支援しています。飲み物の注文取りや抹茶を立てるなどの活動をされています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や買い物、外食やドライブなどに出掛けられる機会を提供しています。年2回の遠足には、ご家族様にも協力して頂きながら実施しています。	事業所の周辺を、日々散歩している。個別の希望に応じ、買い物や外食、自宅などへ、職員と共に出かけている。年に2回の遠足では、家族と協力しながら、実施をしている。	

岐阜県 グループホーム「和居和居」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの希望や力に応じてお金の所持は対応しています。お預かりしている場合には、必要時に買い物・支払いの支援を行っています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご親戚やご家族様へ電話を掛けられる機会や届いた手紙へ返事を書く機会を提供しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を取り入れた掲示物や花を飾り、利用者様の作品である習字を掲示することで、生活感を取り入れています。	共用の間は、床暖房となっている。加湿器を備え、室温も適切に管理されている。対面式の台所やこたつのある和室は、家庭的である。壁には、雪だるまの共同作品や習字等を掲示している。随所に、花や観葉植物を飾り、居心地よく暮らせる工夫がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	それぞれが好きな場所で自由に過ごされています。リビングでは一人ひとりが落ち着ける場所に座って頂き、自室でくつろがれる方や庭を散策される方もみえます。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの物(タンスや位牌、人形など)を配置したり、利用者様が好む飾り(写真や作品など)を配慮し居心地よく過ごせる工夫をしています。	居室には、洗面台やベッド、エアコンと押入れを設置している。馴染みの家具や鏡台を、使いやすく配置し、写真や花なども飾っている。入り口には、目印の写真とマスコットを飾り、居心地よく過ごせる工夫がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を分かりやすく表示したり、更衣が自己にてできるようタンスの中を季節の物で揃えるなどの工夫をしています。		